

IES-R (Impact of Event Scale-Revised) 改訂出来事インパクト尺度日本語版

- * IES-Rは旧IES (Horowitz et al, 1979) の改訂版として、米国のWeissらが開発した心的外傷性ストレス症状を測定するための自記式質問紙である。旧IESは侵入症状7項目、回避症状8項目の計15項目より構成されているが、IES-Rは過覚醒症状項目を追加し計22項目より構成されている。IES-R日本語版は集団災害から個別被害まで、幅広い種類の心的外傷体験曝露者の症状測定が可能であり、横断調査、症状経過観察、スクリーニング目的などに、すでに広く使用されている。
- * 使用法 「教示」の空欄部分（下線部）に当該の外傷的出来事（例：地震、事件被害、事故）を記入し配布する。
- * 採点法 各選択肢の得点0-4点を合計し、尺度全体ないし下位尺度ごとの得点とする。
- * 下位尺度構成は次のとおりである（下記Weiss論文参照）。

侵入症状 Intrusion	(8項目) ; 1, 2, 3, 6, 9, 14, 16, 20
回避症状 Avoidance	(8項目) ; 5, 7, 8, 11, 12, 13, 17, 22
過覚醒症状 Hyperarousal	(6項目) ; 4, 10, 15, 18, 19, 21
- * 再テスト信頼性：2週間後の再テスト (N=114) スピアマン順位相関係数 $r=.86$ ($p=0.0001$)
- * 内部一貫性（4集団：工場労働者、阪神震災、毒物混入事件、地下鉄サリン事件被害者）

Cronbach's α 係数	=.92 - .95 (Total) ,	=.88 - .91 (Intrusion)
	=.81 - .90 (Avoidance) ,	=.80 - .86 (Hyperarousal)
- * カットオフ — 合計得点24 / 25 (PTSD+partial PTSDのスクリーニング目的)

早期（毒物混入事件）	感度=.89, 特異性=.93, 陽性的中率=.80, 陰性的中率=.96
長期（阪神淡路震災）	感度=.75, 特異性=.71, 陽性的中率=.44, 陰性的中率=.90

《ただしカットオフはあくまでもスクリーニングの目安であり、診断に代わるものではない。》

- * 文献:
 - Asukai, N., Kato, H., Kawamura, N., Kim, Y., Yamamoto, K., Kishimoto, J., Miyake, Y., Nishizono-Maher, A.: Reliability and validity of the Japanese-language version of the Impact of Event Scale-Revised (IES-R-J): Four studies on different traumatic events. *The Journal of Nervous and Mental Disease* 190:175-182, 2002.
 - Weiss, D.S.: The Impact of Event Scale-Revised. In: Wilson, J.P., Keane T.M. eds., *Assessing psychological trauma and PTSD (Second Edition)* . The Guilford Press, New York, 2004, pp168-189.

出典：公益財団法人東京都医学総合研究所ホームページ
<http://www.igakuken.or.jp/mental-health/IES-R.pdf> より引用

K6/K10 日本語版

質問「過去 30 日の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。」
 あてはまるところに○を付けてください」

	質問	回答欄					得点欄	
		全く ない	少し だけ	時々	たい てい	いつ も	K6	K10
1	理由もなく疲れ切ったように感じましたか	0	1	2	3	4		
2	神経過敏に感じましたか	0	1	2	3	4		
3	どうしても落ち着けないくらいに、神経過敏に感じましたか	0	1	2	3	4		
4	絶望的だと感じましたか	0	1	2	3	4		
5	そわそわ、落ち着かなく感じましたか	0	1	2	3	4		
6	じっと座ってられないほど、落ち着かなく感じましたか	0	1	2	3	4		
7	ゆううつに感じましたか	0	1	2	3	4		
8	気分が沈み込んで、何か起こっても気が晴れないように感じましたか	0	1	2	3	4		
9	何をするのも骨折りだと感じましたか	0	1	2	3	4		
10	自分は価値のない人間だと感じましたか	0	1	2	3	4		
合計								

平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
 心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究/研究協力報告書
 一般人口中の精神疾患の簡易なスクリーニングに関する研究

K6及びK10と呼ばれる尺度は、米国のKesslerらが開発した自記式スクリーニング尺度です。
(被災者本人に記入してもらうということです。)

従来標準であるGHQ (General Health Questionnaire) よりも鋭敏であるという結果が得られています。また、GHQに比べて質問数が少なく、簡便に行うことができます。
日本語版は、古川らが作成しています。

K6/K10がスクリーニング出来るのは、抑うつ性障がい(大うつ病、気分変調症)及び不安障がい
(パニック障がい、広場恐怖、社会恐怖、全般性不安障がい、PTSD)です。

カットオフポイント(精神疾患50%以上である)は、

K6 15点以上

K10 25点以上

しかし、あくまでもこれはスクリーニングに使用すべきもの(精神疾患疑いがある方を拾い出す)です。
カットオフポイント以上だから精神疾患だと断定するのではなく、精神医療へつなげる努力が必要です。
また逆にカットオフポイント以下だから大丈夫と鵜呑みにすることもいけません。

色々な情報を基にその人に必要な支援を考えるべきです。

自記式の尺度は、記入者本人が「この選択肢を選んだら自分が障がい者扱いされてしまうから、軽めに書いておこう」ということができなくもありません。

その限界を知った上で用いましょう。

出典：岐阜県精神保健福祉センター、災害時のこころのケア2011より引用

(3) その他、活動の参考になる関連情報の掲載ホームページ

参考資料 『 関連ホームページ 』

- ◆ 『WHO 版サイコロジカル・ファーストエイド』
<https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/pfa.html>
- ◆ 『子供にやさしい空間ガイドブック』
<https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/cfs2.html>
- ◆ 『大切な人を失ったあとに 子どもの悲嘆とケア子どもを支える親と大人のためのガイドブック』
https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/document/pdf/mental_info_childs_guide.pdf
- ◆ 『くまモンと、前へ(2)』
https://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&id=16193&sub_id=2&flid=99140
- ◆ 『被災した認知症の人と家族の支援マニュアル(医療用)』
<http://dementia.umin.jp/iryoku419.pdf>
- ◆ 『被災した認知症の人と家族の支援マニュアル(介護用)』
<http://dementia.umin.jp/kaigo419.pdf>
- ◆ 『AUDIT 』
<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/alcohol/ya-021.html>

引用・参考文献

- 東京都地域防災計画震災編（東京都総務局，平成26年改正）
- 首都直下地震等対処要領（改定版）（東京都総務局，平成28年3月）
- 東京都保健医療計画（東京都福祉保健局，平成30年3月改正）
- 災害時医療救護活動ガイドライン（東京都福祉保健局，平成30年3月改正）
- 災害時における薬剤師斑活動マニュアル（東京都福祉保健局，平成26年9月）
- 西多摩圏域市町村災害時保健活動ガイドライン～保健師の活動を中心に～（東京都西多摩保健所，平成29年3月）
- DPAT活動マニュアル Ver.1.1（災害時こころの情報支援センター，平成27年1月）
- DPAT活動マニュアル Ver.2.0（厚生労働省委託事業DPAT事務局，平成30年3月）
- 被災者のこころのケア都道府県対応ガイドライン（内閣府，平成24年3月）
- 災害時地域精神保健医療活動ガイドライン（平成13年度厚生科学研究費補助金(厚生科学特別研究費)）
- 大規模災害における保健師の活動マニュアル（全国保健師長会，平成25年7月）
- WHO版心理的応急処置（サイコロジカル・ファーストエイド：PFA）フィールドガイド，災害時こころの情報支援センター
- 災害時のこころのケア（岐阜県精神保健福祉センター，2011）
- 災害時のこころのケア（日本赤十字社，平成16年6月）
- 災害時のこころのケア活動マニュアル（石川県健康福祉部，平成27年10月）
- 茨城県災害派遣精神医療チーム（茨城DPAT）活動マニュアル Ver.1（茨城県，平成29年3月）
- 大阪府DPATガイドライン（大阪府健康医療部保健医療室地域保健課精神保健グループ、大阪府こころの健康総合センター，平成29年3月）
- 災害時におけるこころのケア活動マニュアル（沖縄県，平成26年3月）
- 災害時のこころのケア対策の手引（体制編）（対策編）（静岡県健康福祉部，平成27年3月）
- 災害時のこころのケア2015～支援者マニュアル～第3版（長野県精神保健福祉センター，平成27年3月）
- 山形県災害派遣精神医療チーム（山形DPAT）活動マニュアル（山形県障がい福祉課，平成28年4月）

東京都災害派遣精神医療チーム（東京DPAT）マニュアル

登録番号（29）9

平成30年3月発行

編集・発行 東京都立中部総合精神保健福祉センター
〒156-0057 東京都世田谷区上北沢二丁目1番7号
電話 03-3302-7575（代表）

印刷 社会福祉法人 東京コロニー 東京都大田福祉工場
〒143-0015 東京都大田区大森西2-22-26
電話 03-3762-7611（代表）

